

四谷の

千枚田だより



第 113 号



連谷地区新年祝賀会

一月三日、公民館関係役員主催により、恒例の新年祝賀会が地域内四十一名の参加の元に盛大に行われた。この会には毎年、穂積市長、峰野県議、森市議をお招きし、行政の取組み、地域からのお願いなど、それぞれが膝を合わせ、語り合い、むさくるしさのない有意義な会を催した。

来賓祝辞 穂積市長さん

新年あけましておめでとうございます。市長でございます。今年もこうして連谷地区の新年祝賀会にお招きいただきまして誠にありがとうございます。また、旧年中は新城市政について様々な面でご協力、ご支援を賜りました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本年も、また、旧年に倍しましてご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

市長になりましたから毎年のようにこの会にお呼び頂いて皆様方の元気な姿、お声を聞くことができます。市長の公務日程の最初の行事がこの連谷地区の新年会でありま

す。連谷新年会とは「何？」と、新聞の記事(千枚田だより)をみてよく聞かれる訳ですが、「連谷地区の話

をしながら、また、千枚田の話しながら」と言いますと、お正月早々そんな会があるんですかと、よく聞かれますが、早いもので市が合併して八年になりましたがいろいろな歩みがありました。鳳来町の最後の年に「四谷の千枚田」のサミットを行うことができたことは今もつい昨日のように思い出が深くあります。やまびこの丘で全国の皆様方と交流会を行い、大いに盛り上がったことや、あるいは、鳳来のサミットのあり方がその後のサミットのあり方を大きく決定、方向づけたこと、そして、今年のサミットにも皆様、手弁当で駆けつけて交流を続けていただいていること、おかげでCO2では愛知県の環境の象徴として四谷の千枚田の写真が掲載(招致コマーション誌)されるとか、また、いろいろな機関、企業(アサヒスーパードライなど)の中でも千枚田の様子が写真に掲載され「原風景、ふるさと」として知られるようになった

ことなどといろいろな活動が重ねられてきました。皆さんのふるさとにかける思いの強さがこれらを実現させた事と思います。

昨年は、一昨年の三月十一日の大震災、原発事故を受けて再生可能な自然エネルギーの利用ということが大きく社会にもとりあげられ、さまざまな取り組みが始まった訳ですが、この、四谷地区(千枚田ふれあい広場)において愛知県の事業として「小水力発電」の実証試験をすることにになりました。その結果を受けて次のステップが二十五年度ということになりました。

私たち、足元を見つめ直していく大きなきっかけとなったのが千枚田のサミットの活動でありました。そして、三月十一日の大震災が改めて古い事を思い起こすだけではなく、次の時代に活かすべく私たちの足元にある資源をもう一度活かす続けようという機運が起こつてきました。そうした中で連谷地区の皆さんが千枚田をシンボルとしてお互いに手を取り合い、身を寄せ合いつながり「ふるさと、地域を元気づけていこう」という機運が益々活発になっていくことについて本心に敬意を表し、喜んでいことであります。今年には新城市にとりましては四月から「新城版 こども園」、地域自

治区制度のスタートなど、新しい街づくりの形が一つの方向付けとなってでてまいります。これからのふるさと、地域の活性化のためにも、なお一層、皆様方のお力を頂き、私も市行政と議会とを力を合わせ、そして峰野県議さんを先頭にし、県の議会や行政とも方向を一緒にして地域の振興のために頑張りたいと思います。また、この一年、連谷地区の皆さんの益々のご活躍、ご多幸、なによりも、それぞれの家庭がご健康で、一年が素晴らしい年になりますことを、この場をお借りしまして心から祈念申し上げます。新年のご挨拶として、この会への毎年お呼び頂いていることへの心からのお礼とさせていただきます。ありがとうございます。

来賓祝辞 峰野県議さん

《要約》
①昨年、九月の補正予算で海老バイパスの予算が付いた。
②「あいち森と緑づくり事業」も二十五年度で一区切り。メニューを新たに継続を打診している。等々

乾杯の挨拶 森 市議さん

市議は今回限り。十七年前に妻と二人で選挙戦に。労働組合「連合」の応援を受けた手前、後継者はいくらもない。皆さんのご多幸を祝し、乾杯

サンタのおじさん

十二月二十四日、連谷お助け隊有志(林 義明 原田佳治 高橋賀津男 大橋剛 小山泰徳)は今年も連谷小学生五名と幼児四名の家庭を軽トラに発電機でツリーを電飾、サンタクロースに扮して慰問。ビックリ顔で喜べられたり、泣かれたりしながらも慈善活動を満喫した。

(舜)もサンタに扮し、同行したが軽トラは寒いので、同行したくない。サンタクロースが煙突から入り、暖まってから、よい子に贈り物を届けていることが、よく判った。



伝統文化地域交流公演

とき 平成二十五年一月二十七日(日)
ところ 雄踏文化センター大ホール

出演 川名ひよどり(浜松市引佐町)

鳥原歌舞伎(新城市日吉)

連谷のはねこみ(新城市四谷)

(身平橋西組共進連)

入場無料

雄踏歌舞伎「万人講」保存会

主権 雄踏歌舞伎保存会「万人講」浜松市

後援 中日新聞東海本社 他

西組共進連の「はねこみ」は十三時二十分から約四十分間行います。

念仏踊りは正月行事とともに日本二大祖霊祭の一つであり、昭和三十年代までは奥三河の各地で盛大に催されてきたが、経済成長の余波(少子・過疎化)で衰退の一途を辿った。継続している集落も僅かにみられるが、「若い衆」の減少で年齢に囚われない「保存会」を結成。細々と継続しているのが事実で、継承が危ぶまれている。連谷地区には「身平橋組の「西組共進連」と方瀬、真菰組の「方真連」の若い衆主導で継続、継承に頑張っている。

村の繁栄は文化の継承にある。おかげで連谷地区には「四谷の千枚田」と「念仏踊り」という大きな宝(文化)がある。壊すのは簡単だが、いったん壊した後の再開は難しい。



再生可能な自然エネルギー

炭を焼く旭兄い夫婦

「い広場」に再生可能な自然エネルギーとして小水力発電装置が愛知県第一号として設置される。本年度予算で配管等付帯設備工事が正月明けから始まった。発電機等の設置は新年度からで、完成点灯式は平成二十五年六月一日に行われる。

望月街道膝栗毛

正月二日早朝六時、連谷小学校前に集まった林 義明、高橋賀津男、原田佳治と松下の古田久夫さん四人は徒歩で東栄温泉に向け、出発した。まずは、鳳来寺の表参道から仁王門を過ぎ、日本一の高さを誇る傘杉を見上げながら「この、しめ縄は千枚田の糯藁で稲熊富平と(舜)が提供したもんだげな」と話ながら千四百段の石段をふうふう言いながらも制覇。鳳来寺・東照宮を参拝し、湯谷までの下り坂を「膝が笑う」といいながらも辿り着いた。メンバーは板敷川沿いの「望月街道」を柿平で国道に出て、「まああ、駄目だ、帰る」となどつぶつぶ言いながらも何とか東栄温泉に到着。温泉に浸かり、旨い酒?を飲み交わしただけ。帰路は近道の仏坂トンネルを歩かず、「おっ母ちゃん」を呼び、「車はやっぱり楽だのん」と言っただけか、言わなかったとか:

小水力発電

都市近郊住民に素晴らしい景観と憩いの場を提供。また、CO2削減の場では里山として四谷の千枚田の写真やパンフレットが展示、配布された。また、環境大団ドイツ連邦共和国の大臣一行やエクスカーションで訪れた各国の方達が鞍掛山の裾野に広がる千枚田に「ワンダフルサトヤマ」と歓声が沸き揚がった。(舜)はこの催事で静岡県松崎町で開催された「全国棚田サミット」に参加することができなかったのが心残りであったが、嬉しかった。など、愛知県の環境の象徴として「地域、市民、県民、国の宝」として貢献する四谷の千枚田の「ふれあ

行 平成二十五年一月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文 責 小山舜二